かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66−1311
FAX 66−1314

田植えも終わり、入梅、そして本格的な夏へ ―
(6月15日、三原市八幡町内で撮影)

さあ！おたすけ　祈る 動く つなぐ

おたすけ・お願いカード　集計：８０，９６５枚
平成２７年４月２１日～５月２０日
累計：９５１，００７枚

一万人のおぢばがえり　集計：４８５人
累計：３，１６３人
平成２７年　１月１日～５月２０日

立教178年
6月号

縦の伝道講習会 開催

5月21日 祭典講話にかえて

少年会笠岡団（武内正美団長）は5月21日、田邊大治先生（少年会本部委員・此花大教会長）を講師に迎え、大教会5月月次祭後に「縦の伝道講習会」を開催。役員・部内教会長・よふぼく・信者多数が受講した。講話要旨は次の通り。

縦の伝道の大切さについて話される田邊先生

時代が移り変わってもお道の教えは変わらず伝えるべきものであり、陽気ぐらしの為には横の布教と縦の伝道がなければ道は広がらない。

おさしづに「…道というは、小さい時から心写さにゃならん。…」（明治三十三年十一月十六日上原佐助小人出物の障りに付願）と、お教え下さる。

また、真柱様は、大人が信念もって子供の頃に躾けてくれた事はいつまでも心に残ると話され、吸収しやすい子供の頃から信仰の喜びを写す努力をし、その為には神一条の精神で日々を送る事を諭されておられる。私は、縦の伝道に一生努力し続けねばならないものと思っている。

さんさい誌編集する立場から毎月取材を通じて色々と学ばせて頂いている。例をあげると、東京こども図書館館長の松岡享子さんに子どもに読書を奨めることについて取材に行った。松岡さんは、親が子どもと楽しむ為に読書をするという考えが無ければ続かないと話され、大人が子どもに押しつけるような考え方は受け付けない事を気付き、信仰も同様であると学んだ。

また、池谷裕二（東京大学・大学院薬学系研究科・教授・薬学博士）さんには、子どものやる気を引き出す事について取材に行った。その問いに対して物事をするのにやる気は必要無く、やりたくない壁を低くするか無くすことであるという。例えば歯磨きが子供の頃嫌いでも習慣になればやらないと気持ち悪くなるように、習慣づける事が何より大切と話される。しかし、逆に親の否定的な言葉、態度、表情でやる気を摘み取る事が多く、子ども自身の価値を落としてしまうと指摘される。この話を受けて、教えの実践も習慣化すればいつ如何なる時でも実行できることを感じさせて頂いた。

私自身41才と若く、教会長としてまた父親として育成に悩むが、その際に天理高校100周年における真柱様の言葉に、「おさしづに『育てば育つ、育てにゃ育たん。』また、『道に外れたる心で育てようと思うた処が育たん。』とあります。人を育てるには育てようという強い意志がなければなりませんし、そしてなによりも、育てようとする者の心の置き所が問われます。どのような人に育てようとしているのか何を伝えようとしているのかはっきりしないのでは育てられる側は戸惑うでしょう。まず育てる立場の者が神一条の精神をしっかり定めて教祖の親心に近づかさせて頂かなければなりません。育てる者が育つことによってはじめて人を育てられるのであります。道に外れた人間思案で考えても人は育てられないとお教え頂きます。人が人を育てるのでは無いのであります。親神様のご守護によって育つご守護を頂くように心を尽くすことが肝心なのであります。」

このお言葉の中で、育てようという強い意志、育てる者の心の置き所が問われる等のお話が心にずしりと来た。伝え切れない、言い切れていない事に反省をする。

また、お屋敷の青年が集まりを持ち始めて当時の先生方が子ども達に話すに当たって伺ったおさしづに「心は十分下からいって」とある。明治の頃は大人と子どもの格差があり、子どもは大人の言葉を絶対聞かないといけないという時代にあった。現在でこそ人を動かすには同じ目線になる事が大切と分かってきたが、おさしづはそれ以前から同じ事を仰せられておりこれが天の理であろうと思う。

そして、逸話編では「分からん子供が分からんのやない。親の教が届かんのや。親の教が、隅々まで届いたなら、子供の成人が分かるであろ。」と、教

祖が度々仰ったと書かれてある。育成の壁に当たる度に思い返すお言葉であり、それはまさに子ども可愛いばかりの親神様の御心ではないかと思う。

陰徳には三種類あると某先生から聞いたことがある。それは、陰で人の事を祈り願う事、次に陰で体を使って働かせて頂く事、そして一番大事であるのが陰で人を褒め、良い事を言うことが最も徳を積み人生が大きく変わって来ると教えられた。

年祭を控え活動方針を『親子で教祖ひながたを親しみ、教えの実践を習慣づけよう』とさせて頂いている。まず親から教祖のひながたに親しみを持ち実践に心がけて頂きたい。そして、今年のこどもおぢばがえりは全教会からの帰参、また初めての方の帰参等に励むことで縦の伝道に繋がり、それぞれの教会が教祖の思し召しに近づかせて頂けるよう共々につとめさせて頂きたい。

《以上要約》

晴天に競う

第9回 大教会長杯 親睦スポーツ大会

5月24日、第9回大教会長杯親善スポーツ大会が開催され、教会ぐるみ・家族連れなど125人が参加した。今年は前日までの天気予報と相反して、汗ばむ程の晴天のご守護を頂き、かさおか古代の丘スポーツ公園で、ソフトボールを行った。

午前中は、参加6チームを2つに分け、リーグ戦で試合を進めた。どの試合も、こどもから大人まで和気藹々（あいあい）とした好プレー・珍プレーが見られ、和やかな雰囲気となった。午後からは、最終順位決定戦を行い、その結果、直轄Aチームが優勝に輝いた。

また、昼食は婦人会によるカレーライスが振る舞われ、参加者一同舌鼓を打った。

尚、最終順位は以下のとおり。

優勝：直轄A。準優勝：久松。3位：上下。4位直轄B。5位：府中市。6位：高屋。

和やかな試合風景

婦人会笠岡支部 第23回総会開催

5月30日、9年振りに第23回婦人会笠岡支部総会が開催された。

午前9時25分、三番太鼓の音をきき、大教会長様入場の後、支部長の手に合わせて親神様、教祖、霊様の礼拝、そして各ブロックよりこの日の為に練習を重ねた会員による14交替のおつとめまなびが、緊張の中にも陽気につとめられた。

その後、式典に移り、神邉委員部長の開会の辞に続き、この9年間の笠岡支部の歩みを、弥高山委員部長の会務報告と共に振り返らせてもらった。

支部長挨拶、そして大教会長様より祝辞を頂き、教祖130年祭へ向けて、又、道の台として実のようぼくに育つ、育てる実動を岡﨑委員のことばにのせて誓い合い、皆部委員部長の閉会の辞で式典が終了した。

中庭では各ブロック、女子青年から用意された品々が並び、昼食をはさみ、13時開始の声を待って、フリーマーケットが賑やかに催された。

前日から懸念されていた雨も曇り空で留まり、集まった人達を困らせるこ

14交代でおつとめまなびをつとめた

となく、屋外での行事も進行することができた。

14時からは、櫻井部属伊都分教会長岩井喜市郎先生による記念講演が行われ、会場になった神殿は、笑いと時には涙を拭く会員達で一杯になった。

女性ならではの誰にでもできるおたすけは、自ら喜び幸せを感じる姿が身近な人達を陽気にしていくのだと、先生の経験から伝わってきた。

教祖130年祭仕上げの年、親の声を素直に受け、おぢばへ一人でも多く帰らせてもらいましょうと髙屋委員部長の終わりの挨拶をもって、総会は無事終了した。

この日、参加者は大人598人、子供85人でした。

最後に、青年会、関係教会、諸先生方には、お忙しい中にもかかわらず、準備、後片づけまでお心寄せ、ご尽力いただき、誠に有難うございました。

（婦人会記録係　上原　千枝子）

ユーモアを交えての講話に参加者も笑顔に

5月23・24日 青年会島根分会おぢばへ

今回の企画は、島根部内の青年会員のA君の厚い想いからです。学生会からの繋がりで、A君が、私の所属教会の近くの病院に入院して居る事を、知人が教えてくれました。早速！「おたすけ」に伺わせて頂いたところ、日頃の疎遠からか「最近は、なかなか便りも無くて、おぢばに帰っていない。おぢばがえりは、したいのにチャンスが少ない。」と、それを聞いた責任感とA君の気持ちを想う時、何とか成らないかと、分会の仲間に打ち明けて、半ば強引に企画をしたのですが、その仲間たちも、仕事の都合や、チャンスに廻り合わないから遠のいている事が理解できました。

老若男女の区別なく世話取りを分会が受け持ち実行しよう！と、話が進みました。

5月23日、14名の参加者は、それこそ色取り取りで17時に島根分教会に参集し、三殿参拝のあと、マイクロバスで教会を出立しました。車中では思い思いの話や、行動計画の案内、久し振りの出会いに語らい、盛り上がり、歓談は尽きる事無く、休憩や食事を交えて・・・ひたすらおぢばへ・・・23時前に本部神苑を通り、道中の無事を御礼申し上げつつ、詰所に帰らせて頂いたのです。そこで、笠岡分会上原明勇委員長さんにお越し頂き、ささやかな親睦の宴に暫くの間御付き合いを頂きました。翌、24日午前9時、快晴の御守護を頂き、門脇理教さん、はづきさんの、両名も合流して、本部神殿で、皆の心を一つに、真剣なおつとめをさせて頂きました。更には、「回廊ひのきしん」を、全員で勇んでさせて頂きました。その中には、本当に久々の人、始めての赤ちゃんが、おぢばの地を踏んで、中身の濃い顔ぶれメンバーの団体に、教祖も微笑んで下された！と思いました。ひと汗を流して、爽やかな気持ちでいただいた、昼食のカレーは、一入、よろこび勇んだ味が染み込んでいたようで、美味しくて、お代りも続出する在り様。

それぞれに笑顔で喜びに満ち溢れた2日間でした。そんな中、A君にはどうしても都合がつかず、同行出来なかった事が唯一の心残りとして、次回に期する課題と成ったのです。その折には、今回の倍の人数を募って、御待ち下さいます教祖に御喜び頂けるように、今から、分会の皆で談じ合い、心を寄せて参ります。

（多古浦分会　余村　元）

ENGLISH SEMINAR

～ 第73回英語講習会 ～

今年も外国から先生が来ます。
会話を中心に役立つ英語を勉強しましょう。
初めての人、大歓迎！
英語が好きな人も、そうでない人も
明るく楽しく 英会話を勉強しましょう！
昨年から、にをいがけに役立つ
「布教英会話クラス」も始めています。
すぐに使える英会話。
可能性が世界へ拡がるかも しれませんよ！

[募 集 要 項]

期　　間	:	8月7日(金)午前9時受付～8日(土)午後3時ごろ解散
受講対象	:	小学4年生以上、中学生、高校生、大学生、一般
受講御供	:	1500円(宿泊費、食費、受講費など、全て込み)
持 参 品	:	英和、和英辞典(あれば)、筆記具、着替え、洗面具等
プログラム	:	少人数による英会話学習、映画鑑賞、英語ゲーム、講話、テーブルマナー、お楽しみ行事等

尚、詳細はスタッフの　上 原 志 郎　TEL 0865(66)1311
吉岡誠一郎　TEL 086(282)0550
もしくは、大教会までお尋ねください。

(御連絡下されば、当日、JR大門駅まで送迎いたします。)

◇　**主　催　天理教笠岡大教会　海外部**

714－0066
笠岡市用之江377　TEL 0865(66)1311

修養科生の声

朝の神殿掃除に勇む

仲條分教会　大山悠記

3ヶ月、修養科に行ってみて最初は天理教の事を何もしらずに行きました。お手ふりや鳴物も何も出来なくて1ヶ月目は覚えるのに精一杯でした。ひのきしん、朝の神殿掃除、かいろうふきなど、眠い中、がんばりました。

子供と嫁も身上になり、一緒に来た人達も身上になり、「おさづけ」が出来なかったので、会長さんに連絡して「どうしたらいいですか？」と聞くと「神殿に行って、お願いづとめをしてみれば」と教えて頂いたので、参拝しました。皆、次の日には元気になりましたが、次は自分が身上になり、皆にめいわくをかけてしまいました。

2ヶ月目は、朝夕の神殿掃除の日数が多くなり、しんどい時がありました。よく授業中にねてる時がありました。嫁も子供も風邪をひいてしまい、自分がまだ変われてない事に気付き、主任先生達からも「子供に身上を見せられると、親はがんばらないといけない」と教えて頂きました。

3ヶ月目はもう終わりの期だったので、ひのきしんも少なくなり、クラスで3ヶ月の感謝として、自分を含め、6名の方達が朝からかいろうふきを手伝ってくれました。11日連続だったんですが、皆、文句も言わずにやって下さいました。子供が3ヶ月の間で、一番育ったので、自分も負けじとやりました。

今、笠岡大教会に帰って来て、まず、高屋に帰って修養科に連れてってくれた会長さんにお礼をしたいと思っています。すみこみの人達にも帰った事でいろいろとめいわくをおかけしたので、これからは進んで教会の事をしていきたいと思います。

未信者だった自分が、今こうして、教会の事をするなんて思っていませんでした。仕事も早くやって、家族、3人安心してくらさせてあげたいです。修養科行く前の生活はさせたくありません。

修養科中、足がいたくて歩くのも嫌だったんですが、一番変わらないといけないのは自分だったので、弱音は吐かないようにしました。本当にこの経験をいかして社会でやらせていただきます。ありがとうございました。

家族三人の修養科

仲條分教会　大山弘美

私は、旦那と息子と3人で修養科に行かせて頂きました。旦那は未信者でなにもわからず、さらに子供を連れていって正直どんなになるんだろうと不安がたくさんでした。

修養科がはじまり、元々、私は旦那を立てることが出来なくて、すぐに言い返してしまい、教養掛の先生にも、「夫婦は天と地だから旦那を立てなさい」と何回も言われて来ました。1ヶ月目はそれがなかなかできず、言い返してばっかりで、2・3ヶ月目になるにつれて、だんだんと夫婦ゲンカも少なくなり、自然と「ありがとう」が言えるようになり、旦那を立てれるようになったかなと思います。

ですが、やっぱり一番うれしかったのは旦那がすごく成人してくれた事です。今まででしたら、だるいばっかりだったのに十日間ほどの、朝の神殿掃除、詰所での自主ひのきしんなどしてくれ、その姿を見ていると本当に嬉しく思いました。反対に私は、自主的な詰所ひのきしんをせず、今は残念に思います。

そして息子も3ヶ月、親の都合に合わせて本当にがんばったと思います。修養科に行った時は、3歩しか歩けなかったのが、帰る頃には走れるまでになり、おしゃべりできるようになりました。天理でここまで成長させて頂いた事をすごくありがたく思います。

修養科で家族3人が変われたのは、一番に上級の会長さんであり、高屋の方々、修養科でできた友達など、周りの支えがあったからだと思います。修養科を終えて、これからは上級に住み込みさせて頂くので、この恩返しをしっかりさせて頂きたいと思いますので、出来る限りですが、ひのきしんなど、やらせて頂きたいと思います。

修養科は本当に自分が変われる所というのを感じました。これからは人に喜んでもらえるような事が出来る人になれたらいいなと思います。そして住み込みの間に徳積みも出来るようがんばっていきたいと思います。

何も知らないで修養科へ

稲倉分教会　森　昌大

知人に勧められ、何も天理教について知らないまま、修養科に行く事になりました。

行った当初は、座りづとめすらわからない状態で、修養科の3ヶ月間どうなるか不安がありました。今回は、修養科参加者が4名と少なかったですが、みんな若くて、同年代が集まり、とても楽しく過ごさせて頂きました。1ヶ月目に全員が体調を崩す事がありましたが、今となれば良い思い出になったと思います。長期ひのきしんが始まり、お墓地までの行き帰りで、お手振りの修練で、骨折していた足が痛くなり、修練をするのが嫌でした。

同じクラスになった人は、年代がバラバラで、大丈夫かなと思っていましたが、終わる頃にはすごく仲が良く、他のクラスと野球をするまで仲良くなりました。仲良くなると今度は別れの時、すごく淋しくなりました。

この3ヶ月間は、学ぶ時も遊ぶ時も本気で楽しめた3ヶ月間でした。この時期に行けて良かったです。

修養科をふり返って

鶴眞分教会　頼　経文

始めは何も考えず、ただ母と叔母に「教祖130祭の節目である、この素晴らしい機会に修養科に行ってらっしゃい。」と言われ、修養科に志願しました。家から天理までの道のりは、不安より楽しみな気持ちの方が多くてワクワクしながら帰って来ました。

修養科では、最高齢92歳で最年少が18歳といった様々な年齢の方々と同じクラスになりました。元々少し人見知りな私は、凄く緊張していましたが、入学式で隣に居た女性が声を掛けて下さって気持ちが軽くなり、すぐに他の方達とも仲良くなりました。教室に入ってから自己紹介の時間があり、そこで漢字は違いますが、同じ名前で同じ年齢の女の子が居て「同じ名前だね。」と言って意気投合した事は本当に良い思い出です。

4月に入ってからは教祖誕生祭がありました。詰所は信者さんが5百人宿泊されるということで大変バタバタしたことも良い思い出です。全教一斉ひのきしんデーもありました。クラス皆で小学校の草取りを行いました。お弁当を詰所で準備し、ひのきしんを行う場所で皆で広げて食べるご飯はとても美味しかったです。

私は長期ひのきしんは会議所にあたっていました。おさづけを戴かれた方達が仮席でお話を聞く場所の清掃を行いました。最初はこんなきれいな場所を毎日掃除して何の意味があるのか分からなかったですが、担当の先生に「会議所の清掃は回廊拭きと同じようなもので、きれいな所を掃除させて頂いて心をきれいにするんだよ。」と言われ、何となく納得出来たのを覚えています。

布教実習では、神名流しを行った後に一般のお宅に訪問してパンフレットを配らせて頂きました。皆様忙しかったようで、お話をするまでは時間を頂くことが出来ませんでしたが、良い経験となりました。

詰所では、最初はやはり自分の気持ちを出すことが出来ず、自分から同じ期の人と距離を取っていたり、不足を言ったりして、相手の気持ちが良い状態では無かったと思いますが、今では自分から相手に話し掛けたりすることが出来るようになり、お互いにすこしずつ距離が縮まってきたのではないかと思っています。

これから先、元の生活に戻り、色々なことがあると思いますが、自分を見つめ直し、相手のことを考えられるようになりたいと思っています。天理では人の見えない所でひのきしんをするのが大切と教えて頂きました。地元に帰ってからはひのきしんに精を出して今まで以上に頑張りたいと思います。

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されていましたので転載いたします。（敬称略）

▼『天理時報』

▽5月24日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡㊐　池田広子さん

猪に掘り返されたおこぼれの
筍もらい夕餉の膳に

▽5月31日付「時報俳壇」

・備中㊐　塩飽利子さん

朝参り背山に淡き懸り藤

▼『陽気』誌6月号「道柳」より転載。

▽準秀詠

・東悠㊐　田林美智子さん

徳いっぱい足りるを悟りて今日一日

▼表紙写真

（吉岡輝昭かさおか編集部員）

立教百七十八年 五月月次祭 祭典役割表

祭主	大教会長様
扈者	上原志郎
	中村道徳

講話	縦の伝道講習会

賛者	横山逸郎
	虫明立生
指図方	上原繁道

七月講話	杉原博之

役割＼区分	坐り勤	前半	後半
地方	吉岡壽	佐藤道孝	中村邦義
	田中隆之	中島誠治	上原志郎
	内海史郎	田林久嗣	山田敏教
おつとめ	大教会長様	中村邦義	中村剛
	岡本久善	岡崎真一	門脇元教
	上原繁道	三島渉	中村道徳
	大教会奥様	内海安子	武内正美
	田中ますみ	森本冨美子	門脇加津
	門脇郁子	岡崎豊子	高木孝子
おてをどり	武内清明	佐藤真孝	吉岡誠一郎
笛	森本忠平	渡邉隆夫	赤木素志
ちゃんぽん	笹尾正治	上原繁次	上原浩
拍子木	岡崎真一	虫明立生	森本忠善
太鼓	谷内伸自	高木昭祥	横山逸郎
すりがね	今川昌彦	淺野明教	山野弘実
小鼓	虫明好美	佐藤香苗	横山小智榮
琴	上原順子	三島照美	岡崎和美
三味線	今川佐智子	笹尾一美	中村初美
胡弓			

大教会だより

◎第八八七期修養科

自　立教178年3月1日
至　立教178年5月27日

＊教養掛

三ヶ月間　三代温生（雲東分教会長）
一ヶ月目　藤井正仁（福島上分教会長）
二ヶ月目　三島順教（葦沼分教会長）
三ヶ月目　掛谷宣和（坪生分教会長）

＊修了者

仲條大山悠記
稲倉森昌大
仲條大山弘美
鶴眞賴経文

※訂正

本年5月21日発行の『かさおか 第54巻 第5号』3ページ「立教178年定期巡教」の記事中、左の2教会は、巡教員名を誤っておりましたので、左の通り訂正いたします。

備中中村邦義
錦備中村剛

・原・稿・募・集・

内容　①小随筆　②教会・布教所の独自の活動の紹介　③俳句・和歌・川柳　④教会行事開催後の報告記事 等々

字数　１０００字前後（８００字～１２００字）題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は一句からでも結構です。

寄稿先　下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵　便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江３７７
ＦＡＸ：０８６５－６６－１３１４
メール：**tenkasa@yahoo.co.jp**
尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。

五月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に　会長上原理一慎んで申し上げます
親神様には一列の子供かわいい一条の親心の上から天然自然のお働きを通して陽気ぐらしが出来るようにと御守護下さっております　分けても今の旬は青葉若葉が目に眩しく鳥や虫等生命の息吹きを感じつつ日々は結構に恙なくお連れ通り頂いております加えて「とのような事をするのもみな月日　しんぢつよりのたすけ一ぢよ」と身上や事情又天変地異を通して心得違いをお教え下され成人をお促し下さっております事は　誠に有難く勿体ない極みでございます　私共は身体や自然の変化を通してかしものかりものの理をを味わわせて頂き　とまどいを覚えながらも喜び感謝の心で日々は朝夕に御礼を申し上げつつ　御恩報じを念じて教祖百三十年祭を目指してたすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております
その中にも今日の吉日は理のお許しを戴いた御祭日でございますので　只今からおつとめ奉仕人一同　喜び感謝の心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて五月の月次祭を執り行わせて頂きます　御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が八万九百六十五枚のおたすけお願いカードにたすけ心を託し　共にお歌を唱和して日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ　尚も変わらぬ親心にお縋りする状を御覧下さいまして　親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。
さて先月二十九日の全教一斉ひのきしんデーには晴天の御守護を賜り　誠に有難うございました　お陰をもちまして国の内外の津々浦々で共にひのきしんの汗を流させて頂きつつ　年祭への成人の歩みを誓い合う事が出来ました　又今月は直轄巡教をさせて頂き　年祭活動三年目仕上げの年にふさわしい成人の歩みを進めている事の確認と　立教と年祭に込められた「世界一列救けたい」との親心を再確認し　成人目標の実践を通してより一層たすけ一条に励む事を誓い合わせて頂きました　更には又　本日は縦の伝道講習会を開催させて頂き　道の後継者育成には少年会活動は不可欠である事を再認識すると共に　育てる意識を強く持ち　育ての実践をより推し進めて行く所存でございます
何卒親神様には　教祖百三十年祭を目指しどうでも親に喜んで貰いたいと一筋心でたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さり　万たすけの上に更なる自由の御守護をお現し下さいまして　かしものかりものの御教えが心に深く修まり人のたすけ心にこそたすけの理をお現し下さる親心に気付く人が弥増して　よろず互いに救け合う陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を　一同と共に慎んでお願い申し上げます

毎月の本部の祭典には、結婚してからずっと家族で帰らせて頂いている。そうするとお昼ご飯は、決まって妻がお弁当を作ってくれる。お店で買ってもいいけどお金がかかるし、ドライブインでは味気ないしと言って・・・。　最近は夜明けが早いので、日帰りで帰らせて頂くこともある。その時は朝ご飯がお弁当である。前の日に作ってもいいけど、美味しくなくなるからと言って、朝の三時に起きてお弁当を作ってくれる。
朝四時半　教会出発！　車中で朝の太陽が昇る光景を見るのもいいものである。途中、皆で朝ご飯のお弁当を食べる。その時が小さな幸せを感じる時である。有難いな！　妻にも感謝であるが、こんな風に家族でおぢば帰りできるなんて本当に有難いことだと思う。しかし、来年は子供が小学生になるので毎月のおぢば帰りは難しくなる・・・。
さあ　朝の八時半、おぢばへ到着！　いざ神殿へＧＯ!!
教祖百三十年祭に向かって、一人でも多くの方と一緒におぢば帰りできるよう、又皆で楽しくお弁当も食べたいと思う今日この頃である。
（は）

しかも、年頭会議の席上、大教会長様は、

――表統領先生は昨年より倍のご守護を頂けと言われるが、昨年の皆様の成人の上からは、単に倍すればよいという訳のものではないので、このように定めさせて頂いた。どうか全名称が一カ所残らず、最低これだけのご守護は頂いてもらいたい――

と言葉を結ばれた事を思い併せて考えると、いかにも私達の未成人の故に、をやの思いについて、いわゆるをやの足を引っ張っているような、誠に申し訳ない感じがするのは、私一人ではないと思います。

なるほど、をやは私達の成人の至らなさに対して、重荷をかけたらいずんでしまうように思われ、温かい親心で昨年と殆ど同じような心定めを与えて下さったのでしょうが、私達は親の思いがどこにあるかを思案させて頂き、仰せ頂いたつとめを、それこそかんぜんにつとめ上げさせて頂くと共にそれ以上の実をご守護頂かねばなりません。

年頭にあたっての真柱様のお言葉の中にも、

――時旬は成人しやすい時をお与え頂いているが、成人しようという心がなければ、気持ちがなければならない。各自が成人しようと努力しなければならない――

とまで仰って下さっています。

お互いやる気をもって何でもどうでも親に喜んで頂くように昨年の倍のつとめこそ、銘々の目標としてつとめさせて頂きたいものであります。

この年、「かさおか」誌一月、二月、五月号に、大教会史編纂略史を掲載。又一月号から十二月号に亘り、稿本笠岡大教会史年表（自寛政十年　至大正十四年を分載）

2・26　神昭分教会三代会長開地俊夫任命（二代会長開地和市辞任）
　就任奉告祭：四月九日
2・26　神昭分教会附属建物増改築
3・21　月次祭に併せて祭典後、少年会本部委員長・中森芳次先生を迎え、縦の伝道講習　会
3・26　西村分教会建築模様替
3・26　揚素分教会二代会長吉岡宣弘任命（初代会長吉岡慶一辞任）
　就任奉告祭：五月十日
3・26　福廣分教会四代会長楳田友一任命（三代会長佐々木サダ　昭和四十九年一月五日　出直）
　就任奉告祭：五月一日
3・26　鶴南分教会御目標様再下附
3・26　鶴南分教会移転
　旧所在地：岡山県津山市南町一丁目百九
　新所在地：岡山県津山市字大熊ノ南百三十九番五
　鎮座祭：四月六日
　奉告祭：四月七日
3・27　第十二回春季英語講習会開催（一二〇人　三〇日まで）
5・1　教祖九十年祭地方講習会始まる（七月二十一日まで）
5・5　少年会笠岡団少年大会開催（四〇〇人）
5・21　月次祭祭典後　午後会長宅庭園で園遊会（八〇〇人）